

令和2年2月28日

箕輪町議会議長 中澤清明 様

総務産業常任委員会委員長 荻原 省三 印

箕輪町議会委員派遣結果報告書

箕輪町議会議員の派遣等実施要領第5条の規定に基づき、下記のとおり報告します。

記

研修名	総務産業常任委員会視察研修
研修の期間	令和2年2月3日～5日
研修の場所	兵庫県宝塚市、兵庫楽農生活センター、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」、奈良県道の駅「レスティ唐古・鍵」 三重県亀山市
成果 (具体的に)	2月3日（月） ○兵庫県宝塚市：川面地区自主防災会の取組みについて 2月4日（火） ○兵庫楽農生活センター：施設概要、各種事業の取組みについて ○阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」：施設見学、体験 2月5日（水） ○奈良県道の駅「レスティ唐古・鍵」：施設見学 ○三重県亀山市：産業振興の取組みについて 【詳細は別紙のとおり】
委員会名 派遣議員名	総務産業常任委員会 荻原省三、金澤幸宣、伊藤 隆、岡田建二郎、青木俊夫 木村英雄、中澤千夏志、中澤清明議長

【別紙】

2月3日

○兵庫県宝塚市

川面地区自主防災会の取組みについて、防災会の役員の皆さんからご教授いただきました。阪神・淡路大震災をきっかけに「避難スイッチ」の仕組みを考えた。自らの命を第一に考え、自主防災組織が独自の判断で避難することが大事である。震災後「避難スイッチ」は入れた経過はないとのこと。この自主防災組織は、地区の「だんじり保存会」が中心となり組織されているためお年寄りから若い人たちにも繋がっているとのことであった。

2月4日

○兵庫楽農生活センター

楽農生活とは、食を楽しみ、農を体験し、農を学び実践すること。神戸市の旧農業試験場、農大の跡地に甲子園球場の10倍の広さがあり、農を楽しむイベントを多数開催している。体験・研修・支援を通して新規就農者も平成17年～30年までに343名（7割が神戸市内）いる。

○阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」

阪神・淡路大震災から25年。当時の映像資料や被災現物を目の当たりにし改めて自然の驚異を感じる事が出来た。復興後25年が経過し、震災の記憶の風化が懸念される中、今後起こりうる様々な災害に対して防災・減災を考えるためにも多くの人に見学・体験していただきたいと感じた。

2月5日

○三重県亀山市

産業振興の取組みについて、視察を行いました。「世界の亀山モデル」に代表されるシャープ(株)のほか、多数の大手企業の工場誘致に成功し、市の総合力アップ、ブランド力向上を実践した数少ない成功事例の自治体である。「市民力・地域力が輝くまちづくり」のコンセプトは参考にすべき自治体の典型と感じた。